

<b>&lt;校訓&gt;</b> 高志共生	<b>大庄中通信</b>	大庄中学校 H26 年度第 18 号 (H26. 9. 22・月)
---------------------------	--------------	---

大庄中は平成27年度に創立10周年、尼崎市は平成28年に市制100周年を迎えます

## 中間テスト10日前

今日は、2学期の中間テスト10日前です。テスト範囲の発表は今週の木曜日ですが、「定期テストのための準備は2週間前から」とも言われます。準備は順調に進んでいるでしょうか？今回の期日と時間割は

2日(木) ①理科 ②社会 ③英語

3日(金) ①数学 ②国語 ③英語

### テスト勉強の期間は個人差がある

2週間もテスト勉強をするのは長い！と思う人がほとんどかもしれません。もちろん、定期テストのための勉強に必要な期間は個人差がありますし、教科によっても違ってきます。ですから、2週間というのは、あくまで一般的な期間と考えてください。



ふだんの授業を集中してしっかり受けていて、家庭学習での復習も確実にできている人は、学校で習ったことがある程度身につけているはずですから、2週間のテスト勉強の期間は必要ないでしょう。逆に、授業の内容がちゃんと理解できていない人は、テスト1週間前までに教科書やノートを見直ししながら、あるいは、わからないところを誰かに教えてもらったりしながら、テスト1週間前から「問題練習をする」とか「覚える」という勉強に入れるための準備を始めておく必要があります。つまり、授業での理解度やこれまでに習ってことがどれだけ身についているかで、定期テストに向けた勉強をする期間も違ってくるのです。

### 暗記教科はタイミングを考えて

また、社会や理科といった「暗記」が求められる教科は、早くから暗記に取り組んで、テストの時に忘れてしまっているようでは、何にもなりません。「暗記」を始めるタイミングを見定める必要があります。もちろん、内容を理解できていないのに暗記をしようとしても無意味ですから、授業の内容がわかっていることが前提となります。その上で、暗記と平行して問題演習を行い、覚えたことを使って本当に問題が解けるかどうかの確認を行うのがテスト1週間前の社会や理科の勉強になります。

### 積み上げ教科はふだんの学習が大切

これに対して、数学と英語は積み上げ教科ですから、以前に習ったことが理解できていなければ、今習っていることは理解できません。例えば、数学で1年生の初めに学習する正の数・負の数や文字式が理解できていなければ、その先の方程式や因数分解ができるようにはなりません。小学校の時の小数や分数の計算が身につけていない人も同じです。ですから、以前に習ったことに戻って勉強し直す必要のある人もいます。英語も同じです。もちろん、数学や英語も暗記をしなければいけない内容はあります。英語の単語や文法はそうでしょう（文法は、理解するこ

とも必要ですが）。積み上げ教科では、今習っていることの中にも以前に学習した内容がたくさん出てきます。例えば、英語で現在完了を習っているとしましょう。しかし、教科書の文章の中には、be動詞も疑問文も進行形も出てくるでしょう。無意識のうちに、以前に習ったことを使っているのです。逆に言えば、以前に習ったことが理解できていなければ、いくら今習っていることに取り組んでも、文章は理解できません。そういう人は、以前に習ったことで理解できていないところに戻って勉強し直す必要があります。

数学や英語のような積み上げ教科は、ふだんからの勉強が大切です。それができていなければ、テストに向けた勉強以外にも別の勉強が必要です。個人個人の理解度で、勉強の方法が違ってきます。

### テスト勉強のヒントの要点

1学期の学校だより第7号と第10号で「テスト勉強のヒント」を書きました。勉強法は個人個人違いますが、確認のために、見出しだけ書いておきます。10日間を有意義に使って、よい結果を出してください。

- (1) 勉強はできない(わからない)ことをできる(わかる)ようにすること
- (2) 計画を立ててテスト勉強に取り組む
- (3) テスト勉強の手順は、要点の整理・確認・まとめをする次に問題練習に取り組むが原則
- (4) 苦手分野や過去のテストで間違えたところ(できなかったところ)だけを勉強してみるのも有効
- (5) 提出のために答えを書き写すだけの問題演習や問題の( )埋め、ノートの書き写しは、時間のムダ
- (6) 暗記は「タイミング」を考える
- (7) 過去問から出題の傾向をつかみ対策を立てるのも有効

## 5段階の評定は？

ところで、各教科の評定(5・4・3・2・1)は、学校だより第14号で書いた方法で決まります。今回は、もう少し、詳しい説明をします。一例ですが、各教科の評定のための材料としては、

1. 定期テストや実力テスト
2. 小テスト(確認テスト、単語テスト、漢字テスト、実技テストなど)
3. 提出物(ノート、問題集、プリント、レポート、宿題や課題など)
4. 授業中の取り組み(発表や発言、忘れ物など)

などを使います。そして、各教科の単元の目標にどの程度到達しているか、4つの「観点」①関心・意欲・態度②思考力③表現力④知識・理解について、評価規準に基づいて点数をつけ、それを学期ごとに集計します。例えば、

- ① 定期テスト200点で、知識理解が100点、表現が50点、思考が50点
- ② 小テスト5回50点で、知識理解が20点、表現が30点
- ③ レポート3回60点で、関心・意欲30点、思考15点、表現15点
- ④ 発表4回40点で、関心・意欲15点、思考15点、表現10点

このようにして、学期の観点ごとのA・B・Cが決まり、そこから5段階の評定が決まります。ですから、定期テストは、知識・理解だけを問うものではありません。また、定期テスト以外の日常の学習も、学期の評定に関わっていることを忘れずに、ふだんの学習に取り組んでほしいと思います。



(文責:校長 福井 隆夫)